



たまたま路上で出会い、私はこの赤い服を着た彩虹という女の子と知り合いました。2001年8月、私は安塞の裏谷を通して、何ヶ月か前に写真を撮った女の子を訪ねて竜泉寺村へ行こうと歩いていました。杜村を過ぎたところで、二人の女の子が喋ったり笑ったりしながらのんびり歩いているのを見かけました。

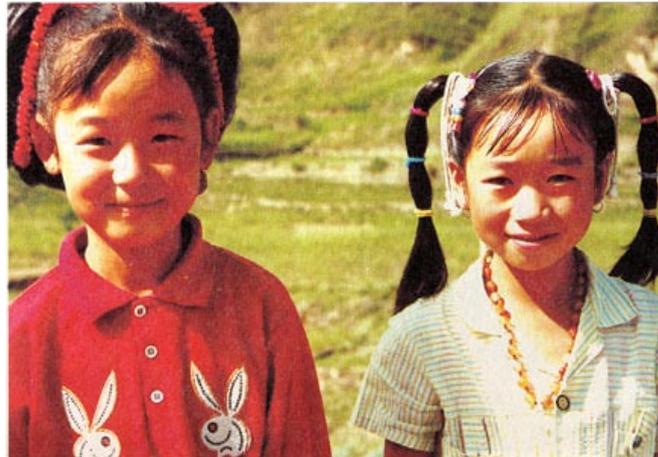
その一人が赤い服を着て、髪の毛(まげ)を毛糸の紐で結んで長く垂らしており、その紐は頭を振るたびに跳ね上がってとても可愛いらしいのです。その子が彩虹です。私は思わずカメラを構え彼女に焦点を合わせて何枚かの写真を撮りました。いい具合に雨が上がったところで空が晴れ、青い空にうろこ雲が浮かんでいます。黄土に立つ赤い衣装の女の子の姿は絵のようです。詩情溢れる時の中のように、体中の疲れが瞬時に癒されました。

午後、竜泉村から戻るとき、又彩虹に会えればいいと思って大急ぎで取って返しました。喜ばしいことに、杜村に戻ってみると再び道端でこの子に会えました。私はすぐにこの子にアンケート用紙を渡して書いてもらい、又何枚か写真を撮りました。昼前に会っているので午後はとても打ち解けた感じでした。私は別れるときにも又この子と、この子と一緒にいた女の子をいっしょに写真を撮りました。

翌年1月2日、私は彩虹の取材を目的に又裏

谷に行きました。農閑期だったこともあって、家には大勢の近隣の人が集まり、私が写した彩虹の写真を手に口々に褒めそやしました。私は勢いで又彼女とお母さんとお姉さんをいっしょに写しました。この写真を見ると、母子三人はまるで瓜二つです。

ある日、仏教を研究している友達が訪ねて来て、彩



虹の写真を見るとビックリしたように言いました。「この子は、漢代に作られた仏像の中の観音菩薩によく似ているな。」彼に言われてよくよく見ますと、本当に目鼻立ちが塩梅よく配置され、眉の辺りが伸びやかで、ふっくらとした顔つきに慈愛を感じます。北魏時代の観世音菩薩

はみんなこんな風です。

彩虹が理想として選んだのは、教師、科学者、医者、警官で、これらの職業はどれも人々に幸福と神の加護をもたらすもので、私は心の中で彼女がこれらの職業を選ぶのには内的に何か関わるものがあるのではないかと思うのです。

